

●WAI 研究余聞

本文でも述べたように、WAI 研究を始めた目的はいろいろある。併し、当初の目的にはなかった果実が、結果としてえられたものもいろいろある。

その中で最大の収穫はパーソナリティ把握のスキームがえられたことであろう。

●このようなものが WAI の研究の結果、実証的にえられることになるだろうとは予想もしなかった。勿論、30年前にスキームをつくった時も、何時か実証的な裏付けがえられるだろうなどとは考えていなかった。それが、思いもかけずえられたということは最大の収穫であった。

同様に、生涯発達を通じてのパーソナリティ乃至セルフ・イメージの変遷など収穫はいろいろあった。いや、未だ獲り入れつつあるといった方がよい。

併し、このような「表通り」とは別に「枝徑」で、いわばエピソード風に“そうか!”とか“なるほど!”といった感想の類もいろいろ出てきた。そのような副産物というか、印象のいくつかを思いつくままにあげてみよう。

●WAI 技法の重要な特徴の一つとして、「自由回答法」という形式があげられる。つまり、この技法のミソは被調査者が、自分自身の言葉で自発的に回答できるということである。

各自が自分の言葉でセルフ・イメージを表現できるわけである。

通常の質問紙の場合は、例えば(イ)(ロ)(ハ)の選択肢があって、その中の一つに○をつけよ式のものである。いわば“アテガイブチ”である。従って、大方の被調査者が不満をもらす。「オンキセはイヤダ」と。

ところがである。白紙に野を引いた丈の用紙を与えて「サア、何んでも好きに書いて下さい!」といわれると、今度は大いに困惑するようである。

永年、オ上のいうことに従うことに慣らされたからか、或いは、○×式に慣らされた故か。調査を依頼した先から「何を書けばよいのだ?」という問合せが相次いだ。

矢張り、トナリ百姓、右ヘナラエの国民性の表われかと今更乍ら思い知らされた。

●同じく国民性を思わせたのは「能力」に関する言及が極端に少ないことである。

日頃、能力主義を口にしているにしては、矢張り、永年シムコダ「出る杭は打たれる」「能あるブタはヘソをかくす」という根性のあらわれか?

マア、よくいえば「コトアゲセヌ」我が国古来の美德の表われであろうか!

自己を売りこむ競争社会のアメリカでは考えられないことであろう。これも「国民性」或いは「文化」の差の表われであろうか。

慶應義塾大学産業研究所社会心理学班研究モノグラフ

組織行動研究 (第19号)

責任編集 榎田 仁・南 隆男

KEIO STUDIES ON
ORGANIZATIONAL BEHAVIOR AND
HUMAN PERFORMANCE No. 19
APRIL 1991

〒108 東京都港区三田 2-15-45
発行 慶應義塾大学産業研究所
電話 03-(3453)-5640 (直通)
<平成3年4月28日>

〒104 東京都新宿区高田馬場 3-8-8
印刷 株式会社 国際文献印刷社
電話 03-(3362)-9741 (代表)
<平成3年4月21日>